

研究室紹介

埋蔵文化財センター国際遺跡研究室

国際遺跡研究室は、2001年の独立行政法人化に伴って新たに埋蔵文化財センターに設置されました。奈良国立文化財研究所の時代にも、ユネスコや国が主催する文化財に関する国際交流・研究協力事業に協力してきましたが、独立行政法人化に際し、研究所設置目的の項目に、はっきりと「文化財に係る調査・研究に関する国際交流・協力等の推進」が謳われ、文化財に関する国際貢献が研究所の重要な業務分野になりました。国際遺跡研究室は、このような経緯によって設置されましたが、現在、定員1名、室長1名で運営しています。奈良文化財研究所では、主として埋蔵文化財に係わる調査・研究・保存修復・整備部門で交流を計っています。

業務は、奈良文化財研究所に係わる海外交流全般を対象としていますが、主たる業務は奈良文化財研究所が実施するすべての国際共同研究動向を把握し、研究所内外からの聴聞に応じて情報を公開することです。現在、研究所は、次に述べる7件の国際共同研究を実施しています。内3件は、中国との共同研究であり、中国社会科学院考古研究所とは、唐長安城大明宮内の苑池太液池の共同発掘調査、河南省文物考古研究所とは、鞏義市黄冶に所在する唐三彩窯跡並びに産品に関する共同研究、遼寧省文物考古研究所とは、三燕文化遺産に関する共同研究をおこなっています。韓国とは、国立文化財研究所と古代の生産遺跡と都城に関する共同研究を実施しています。以上の共同研究は、我が国の古代文化成立を東アジア世界の文化圏の中に位置づけ、その起源を明らかにすることを目的におこなっています。

カンボジアとは、アンコール遺跡保護整備局との間で協定を結び、アンコール文化遺産に関する共同研究を実施すると共に、現地若手研究者の育成にも協力しています。チリ共和国とは、イースター島のモアイ石像の保存修復に関する共同研究をおこなっています。その他、外国からの訪問者に対する対応、国際協力事業団・国際交流基金等の他機関に協力して専門家養成、研修等の事業にも係わり、東京文化財研究所国際文化財保存修復協力センター・業務課と提携して実施しています。

(埋蔵文化財センター 巽淳一郎)